

第1講 はじめに

歴史とは何か？文化史とは何か？

自分自身で考えてみよう

歴史とは：人間の営為を記録し後世に伝える（ヘロドトス）

過去をあるがままに理解する（ランケ）

過去と現在との対話（カー）

文化史とは：人間活動のすべての領域を対象（石田）

日本文化の特徴は文化の連続性・新旧文化の併存・内外の文化の
総合化（石田）

言語論的転回以降、文化史は多様化。社会史や人類学、視覚文化
論や地理学、考古学と関係（バーク）

（参考）言語論的転回：言葉によって現実を理解される

（ソシュール）

石田一良『文化史学の理論と方法』同志社大学出版部、1951年。

E・H・カー（清水幾太郎訳）『歴史とは何か』岩波新書、1962年。

フェルディナン＝ド＝ソシュール（小林英夫訳）『一般言語学講義』

岩波書店、1971年。

ピーター＝バーク（長谷川貴彦訳）『文化史学とは何か』法政大学出版局、

2010年。

ヘロドトス（松平千秋訳）『歴史』岩波文庫、2007年。

L・v・ランケ（山中謙二訳）『ローマ的・ゲルマン的諸民族史』

千代田書房、1948年。